



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

心肺蘇生後の脳血流維持における α_2 作動薬およびCa拮抗薬の作用に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯田, 宏樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/213

はしがき

心肺蘇生時を初めとする脳血管障害における脳蘇生・脳保護は現在の医学における重大な関心事であるが未だ十分な成果が得られていない。心肺蘇生中のエピネフリンやフェニレフリンの脳血流維持作用については、その有用性が示されている（Berkowitz ら、1991）。心肺蘇生後の脳保護という観点からみると、再灌流時の脳血流維持が重要な問題と考えられる。再灌流後の血管床の反応性が正常血管床のそれと異なるのは明白である。最近の知見によれば、 $\alpha 2$ 作動薬やCa拮抗薬が脳保護に有用であったとする報告がある（Hoffman ら1991、Linder ら、1992）。研究代表者らはこれらの薬物の心肺蘇生後の脳血流維持にいかに関与するかを検討課題とした。

この課題の検討をすすめる上で、同モデルにおける正常脳血管の当該薬物、生理学的変化（炭酸ガス濃度の変化等）による影響をより明確にする必要があった。また、安定した心肺蘇生のモデル作成が予想よりも多くの困難を要したことによって、心肺蘇生後の脳血流維持の検討ができた薬物がデキサメドミジン（ $\alpha 2$ 作動薬）に限定された。

今回の科学研究費、一般研究（C）による「心肺蘇生後の脳血流維持における $\alpha 2$ 作動薬およびCa拮抗薬の作用に関する研究」の研究成果報告書はこれらに基づいて、平成6年度から平成7年度の2年間にわたって行った成果である。

研究組織

研究代表者	飯田宏樹	附属病院 (岐阜大学医学部・講師)
研究分担者	上田宣夫	(岐阜大学・医学部附属病院・助手)
	土肥修司	(岐阜大学医学部・教授)

研究経費

平成6年度	800千円
平成7年度	400千円

計 1200千円